

Special interview 2

EXILE USA

踊る旅人・USAの次なる旅先は、日本ニッポンの祭りとダンスのポテンシャルを世界に発信

EXILE USAが、世界を放浪し、行く先々で出会ったダンスを通して国籍も言葉も超えて人々をつなげるプロジェクト「DANCE EARTH」。始動した2006年から7年あまりをかけて、数えきれないほどの国々を訪ねた USAの次なる旅の目的地は、日本。

世界放浪を経て、「日本各地の祭りやダンスを体感して日本の心を知りたい」という思いを抱いていたUSAは、新たなプロジェクト「DANCE EARTH JAPAN」を2013年にスタートさせた。北海道アイヌのマリモ祭り、阿波踊りや高知よさこい…四季を通じて日本各地のさまざまな祭りに身を投じて、日本を踊りこなし USAは、日本のダンスのルーツとソウルの深さに

に驚いたという。「よく、『日本人はシャイであまり踊らない国民』なんて言うじゃないですか？ でも今回、日本中の祭りを巡ってみてビックリしました。踊りもさまざまなものがあるし、青森のねぶた祭りなんか、9万人ものハネト(祭りの踊りの参加者)が踊っているんです。日本ほどダンスがあふれている国はない。ブラジルに負けないくらい(笑)。これは日本人も、ましてや外国の人もあまり知らないことで、ぜひ世界に伝えたい。」

自らのライフワークとして「DANCE EARTH」の旅を続けるUSAの原動力には、「ダンスが好き」という気持ちともうひとつ、「ダンスで世界を変える」という夢がある。そしてそのヒントが、

日本のダンスの歴史にあると感じている。「日本で一番古いダンスってなんだろう?と、調べてみたら『古事記』の『天岩戸(あまのいわど) 神話』だった。太陽の神・天照大神が天岩戸の中に隠れてしまって、世界が真っ暗になった。困った神様たちが相談して出した答えが、天岩戸の前で『踊る』ことだった。そしたら、楽しそうな様子につられて天照大神が岩戸を開いた。ここで言う『岩戸』っていうのは現代の人々の心じゃないか。それが閉じている状態ならば、開くためにダンスが必要。ダンスは、世の中を楽しむものに変えてゆくツールなんです。」



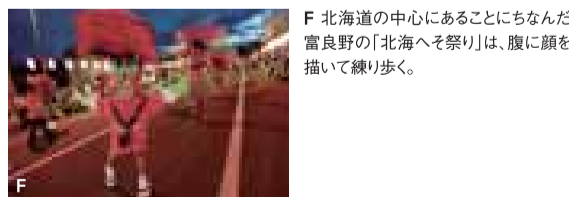
profile 1977年生まれ、神奈川県出身。EXILEのメンバー。2006年に始まったプロジェクト「DANCE EARTH」で、ダンスを通して世界の文化を知り、人々とコミュニケーションをする旅を続けている。その記録は書籍、映画、舞台作品となって、幅広い層に感動を広げている。2011年、自給自足、自然のダンスフロアの実現を目指す「ダンスアースヴィレッジ」がスタート。「ダンスを通じて世界を変える」夢に向け、プロジェクトは進行中。



A 毎年8月初旬に行われる青森ねぶた祭り。人形をかたどったねぶた(灯籠)が街を巡行し、ハネトと呼ばれる踊り手が祭りを盛り上げる。
B ハネトのコスチュームは、浴衣に花笠、タスキ。



C 厳かな出雲大社の境内。
D 日本の神話のふるさと、出雲大社に奉納のダンス。
E 歌舞伎のルーツとなった、出雲の阿国のお墓参り。



F 北海道の中心にあることにちなんだ富良野の「北海へそ祭り」は、腹に顔を描いて練り歩く。

DANCE EARTH JAPAN

EXILE USA が、自らのルーツを探るべく、日本の祭りやダンスを旅するプロジェクト。すでに全国各地10か所以上の祭りを訪ねた。そこで体感した日本のダンスの豊かさを、2014年夏に書籍、そして映画、舞台で発表予定。
<http://www.dance-earth.com/>

Music Pick up

歌への情熱が、パワーアップ中。大型新人、塩ノ谷 早耶香

「EXILE Presents VOCAL BATTLE AUDITION3 ~ For Girls ~」3万人の応募者からファイナリストに選ばれ、「KING RECORDS Presents Dream Vocal Audition」でグランプリを受賞し、メジャーデビューを果たした塩ノ谷 早耶香。恵まれた才能プラス、情熱と努力も人一倍。「幼稚園の頃からジャズダンスを習い始め、高校生の時に歌手を目指したのですが、卒業まで待てず、周りに『本気なんだ!』と信じてもらうために受けたオーディションでした」。デビュー後、3か月という短い期間の中で全国47都道府県をツアーした「うた修行」は大きな成果となった。「楽しい事はもちろん、辛い事もありました。そんな時にライブを見てくださった皆さんに沢山の笑顔や応援の言葉をいただけて本当に感動しました」。ファンとの交流で、歌への情熱はさらに熱いものになっている。



「Snow Flakes Love / 一輪花」
通常盤 TYPE-A [CD+DVD]
(KIZM-2477/8) 1425円(税別)

profile 1994年生まれ、福岡県出身。2013年1月にデビューシングル「Dear Heaven」をリリース。11月に発売された4作目のシングル「Snow Flakes Love / 一輪花」収録曲の「一輪花」がフジテレビ系全国ネット昼ドラ「天国の恋」主題歌に。
<http://www.shionoya-sayaka.jp/>

Craft

京都の伝統工芸、京鹿の子絞りがモダンデザインのアイテムに

布を糸で絞ることで防染して、模様と凹凸を生み出す伝統的な染色技術「京鹿の子絞り」。この技術をさまざまなファッション&インテリアアイテムに生かしたもののづくりで、京都商工会議所の「クリエイティブ産業モデル企業」にも選ばれている「片

山文三郎商店」。伝統とデザインの融合というコンセプトのもと、常に新しいかたちと色が生み出されている。

片山文三郎商店 ●京都市中京区錦薬師通鳥丸西入ル橋弁慶町221
Tel.075-221-2666 <http://bunzaburo.com/>

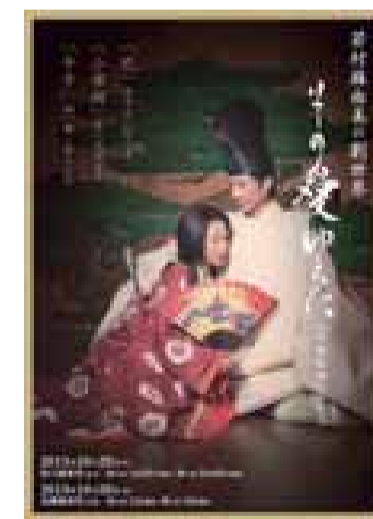


かわいいプチバッグは、ポリエステルサテン生地でお手入れも簡単。豪華な光沢がアクセントに、8色の展開。3800円、輪になったネックレス5000円、スカーフ10000円(すべて税別)

GRAND MARBLE JOURNAL ステージ、アートイベント…、グランマールは「文化の創造」をサポートしています。

古典『平家物語』に生命を吹き込む若村麻由美の劇世界『その愛ゆえに』

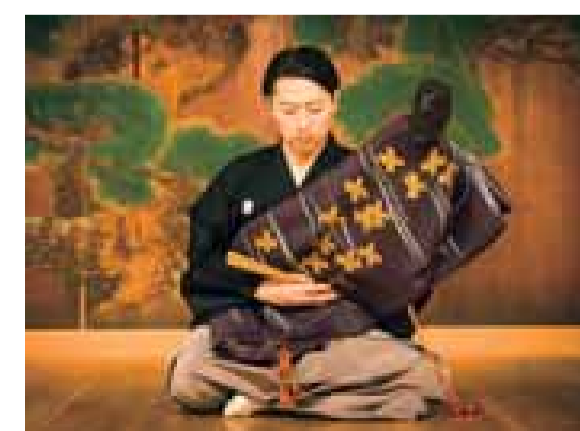
役者・若村麻由美がとりくむ、『平家物語』による語り芝居『その愛ゆえに』が、2013年10月、京都の金剛能楽堂で上演された。装束に身を包んだ若村麻由美のおやかな所作と凛とした声に、場内は古典の物語世界に一気に誘われた。この公演では、『平家物語』のなかでも個性的な魅力を持つ女性の物語「巴」「千手」「小宰相」をとりあげ、それぞれ愛のかたちを描き出した。「千手」では、狂言師の野村萬斎を迎え、古典文学に見事に生命を吹き込む舞台となった。



若き能楽師・林宗一郎による「宗一郎の会」第二回の演目は、不朽の名作『松風』

京都を拠点に活躍する、観世流シテ方楽師・林宗一郎。2012年には『市川海老蔵 古典への誘い』に出演し、能楽と異ジャンルのコラボレーションにも取り組むほか、レクチャーやワークショップも行い、能楽の魅力を伝えている、今もっと

もアクティブな若手の一人だ。2014年、初夏には自らが主催する「宗一郎の会」の第二回公演を行う。演目は『松風』。須磨の浦に現れた松風、村雨の姉妹が、ともに愛した在原平への恋慕の情を語り、思い乱れる。



第二回 宗一郎の会「松風」
2014年7月5日(土) 14:00 会場:京都観世会館 S席9000円ほか(4月1日発売予定) 問い合わせ:林宗一郎能の会事務局 <http://hayashi-soichiro.jp/>